

1

社会関係資本と生の情報———北欧モデルからの示唆

小池直人(情報創造論)

はじめに

北欧型社会(とくにデンマーク)の与える示唆について研究

* 北欧の福祉国家危機からの回復

大きな政府の維持、地方分権化、市民参加の政治、高い福祉水準、科学技術水準の高さ、柔軟な労働市場政策、経済的アクティビティの回復、環境保全・男女平等など倫理的優位性 →人口二千数百万の北欧諸国が、とくに1990年代以降有力な社会モデルとなる。

* 「社会関係資本」(social capital)という論点

小国としての「弱さ」の自覚と巧みな国民戦略、自発結社、社会的信頼、参加民主主義の醸成が政治・経済、文化のアクティビティの基礎

* 「生の情報」(livsoplysning)という論点。

多様な部分情報、専門情報を、生活と社会を活気づける、市民に共通に有用な情報に変換する社会情報メディア、社会情報プロセス

1) 「社会関係資本」の概念

* かつては「社会的間接資本(=社会的インフラ)」(宮本憲一)、「社会的共通資本」(宇沢弘文)など、経済学者によって論じられてきた。

* P・ブルデュー(1930-2002)の定義

「社会関係資本とは、安定した関係のネットワークや多かれ少なかれ公的に承認された『つながり』によって、個人やグループが慣習的に用いる現存ないし潜在的な資源の総計であり、そのことは、そのようなネットワークによって動員されうる資本や権力の総計のことである。」
つながり、自発結社、社会的信頼、民主主義的な政治の機能・・・:各人の力をいきいきと引き出し、政治や経済の活力を高める。

* 社会関係資本の二つの形態

- ・「結束型社会関係資本」(bonding social capital):単一サークル内の結束によるもの
- ・「架橋型社会関係資本」(bridging social capital):単一サークルを越えるもの

2) R・D・パットナムの社会関係資本

* 社会関係資本の定義:「社会関係資本とは、信頼、規範、ネットワークのような社会組織の諸特徴をいい、それは調整された諸活動を備えることで社会の効率性を改善できる。」(Putnam 1993)。一般的信頼、互酬性規範、ネットワーク

* イタリア州制度改革の研究

1970年以降の地方分権化への制度改革のなかでの「制度的遂行性」の研究(Putnam 1993)南部の州と中北部の州の「制度的遂行性」のレベルの違いはどこに由来するか。

* 社会関係資本の衰退問題

- ・旧ソ連のような旧権威主義や封建的ボス支配による衰退。

- ・新自由主義政策による衰退。
- * アメリカにおける社会関係資本の衰退
 - アメリカの市民参加の伝統は、近年では1960年代の高揚し、今日では衰退の一途をたどっている。 Cf. 『孤独なボウラー』(Putnam 2000)
- * 社会中心のアプローチと制度中心のアプローチ
 - ・社会中心のアプローチ: 政治制度とは分離される社会関係資本
アングロ・アメリカ、日本などでの研究
 - ・制度中心のアプローチ: 政治制度がつくりだす社会関係資本
大陸ヨーロッパ、北欧などでの研究

3) 生の情報

- * ヨーロッパ社会の諸類型と北欧型社会 (エスピン＝アンデルセン参照)
 - 自由主義型 (英米型)、保守主義型 (大陸型)、社会民主主義型 (北欧型)、南欧型・・・
- * 北欧の社会関係資本 (ロートスタインおよびストッレ)
 - 好況、安定した豊かな生活、手厚い公共サービス、公平、透明、平等な税支出、国家の非権威主義、世界最高部類のクリーンな政治が活発な団体活動を維持し、社会的信頼関係を築く。
 - 「アメリカ合州国の展開に反して、スカンディナヴィアに社会関係資本の衰退の証拠はない。」(1)「高いレベルの社会体資本は(a) 経済的平等の度合いの高さ、(b) 恩情と汚職のレベルの低さ、(c) 普遍的で差別のない福祉プログラムの優越によって説明されうる。」(Rothstein, B. and D. Stolle 2003)
- * 社会のなかに埋め込まれた生の情報
 - ・公的情報形態の私的情報への「翻訳」、生活の活気づけ
 - ・私的、専門的情報の公的、共通情報への翻訳と蓄積
 - Ex. まちづくり、地域開発などの場合、
- * 学校、福祉施設、図書館など公共施設の状況

- * 職業団体など中間団体の役割
 - コンセンサス・デモクラシーの伝統が形成した個人、私的中间団体、公共セクターがアクターとなって形成する協議社会(forhandlingssamfund)。
- * 生の情報の思想家グントヴィ
 - N. F. S. Grundtvig(1783-1872)。
 - 『世界における人間』(1817)『国家と啓蒙』(1834)
 - 「理性の啓蒙」、科学的情報にたいして、「生の情報」の思想を提示。
 - 機械論的情報とロマン主義的情報の批判
 - 情報の階層性と歴史発展性
 - 科学や専門知など部分情報の生活世界への埋め込み
- * 生の情報の展開
 - 書かれたことばと言語行為

<参考文献リスト>

- Birkelund, R. (1997), *Livsoplysning*, Gyldendal.
- — (1999), Det grundtviske og det rationalistiske oplysningsbegreb, i: *Livsoplysning*, Kvan.
- Bourdieu, P. (1983), Ökonomisches Kapital, kulturelles Kapital, sozial Kapital, übersetzt von R. Kreckel, in: *Soziale Ungleichheiten*, Verlag Otto Schwarz; English translation from German version by R. Nice, The Forms of Capital, in: *Handbook of Theory and Research for the Sociology of Education*, 1986.
- Coleman, J. S. (1988), Social Capital in the Creation of Human Capital, in: *American Journal of Sociology*, 94. 金光淳訳「人的資本の形成における社会関係資本」(野沢慎司編・監訳『リーディングス: ネットワーク論』勁草書房、二〇〇六年)。
- Esping-Andersen, G. (1990), *The Three World of Welfare State*, 岡沢・宮本監訳『福祉資本主義の三つの世界』(ミネルヴァ書房)。
- Grundtvig, N. F. S. (1817), *Om Mennesket i Verden*, Poul Kristensen.
- Koch, H. (1945/91), *Hvad er demokrati?*, Gyldendal. 小池訳『生活形式の民主主義: デンマーク社会の哲学』(花伝社)。
- — (1959), N. F. S. Grundtvig, Gyldendal. (小池直人訳『グルントヴィ』風媒社)。
- 小池直人(2005)『デンマークを探る(改定版)』(風媒社)。
- — (2006)「社会体資本と生活形式の政治——普遍的福祉国家の視点から」(名古屋大学社会文化形成研究会『社会文化形成』創刊号)。
- 小池直人／西英子(2007)『福祉国家デンマークのまちづくり』(かもがわ出版)。
- Putnam, R. D. (1993), *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, Princeton University Press, 1993. 河田訳『哲学する民主主義——伝統と改革の市民的構造——』(NTT出版)。
- — (2000), *Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community*, Simon & Schuster. 柴内訳『孤独なボーリング』(柏書房)。
- Rothstein, B. and D. Stolle (2003), Introduction: Social Capital in Scandinavia, in: *Scandinavian Political Studies*, Vol.26-No.1.
- 週間東洋経済(2008)『北欧はここまでやる』(東洋経済新報社)。